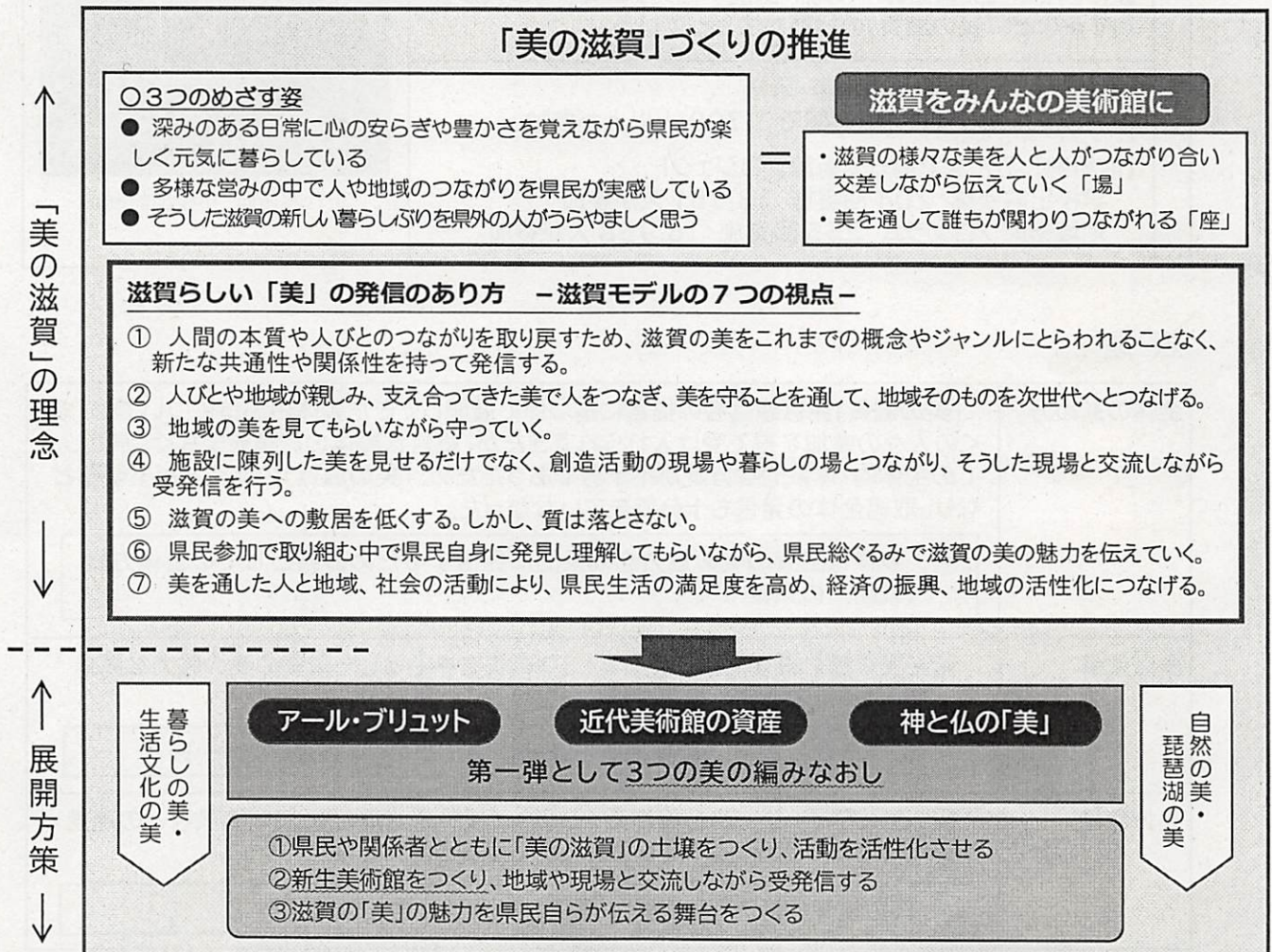


## 「美の滋賀」の成果等について

### 1 「美の滋賀」の経過

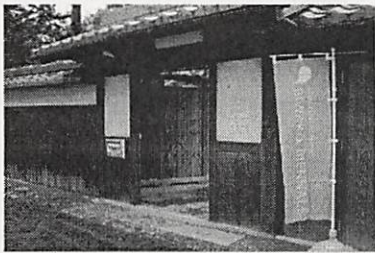


- ① 平成24年2月の「美の滋賀」発信懇話会からの提言を受け、滋賀の美の資源を活かして滋賀の魅力をより一層高めることで、県民の誇りを育て、県民生活の向上を図るとともに、美の魅力で多くの県外の人を惹きつけ、観光や産業の振興、地域の活性化、ブランド力向上につなげていくことを目指して、「美の滋賀」の取組を推進してきた。
- ② 「美の滋賀」の拠点・入口として整備を計画していた新生美術館については、昨年度、2つの拠点施設(近代美術館、琵琶湖文化館後継施設)を核に滋賀の美の魅力を発信していく方針に転換した。
- ③ 平成29年度から休館している近代美術館については、来年度早期の再開館に向けて、老朽化対策工事を行うとともに、エントランスロビー等のウェルカム・ゾーンの空間構築、広報・プロモーションやイベント・オープニングイベントの企画、ホームページの全面リニューアル等を進めている。

(平成24年2月「美の滋賀」発信懇話会 提言まとめ)



## 2 これまでの取組の成果と課題

### <成 果>

①県民や関係者とともに「美の滋賀」の土壤をつくり、活動を活性化させる	
<p>BIWAKO ビエンナーレなど、美の資源を活用したアートイベントに多くの人々が訪れ、地域の活性化につながっている。</p>	 <p>BIWAKO ビエンナーレ 2018</p>
<p>【取組例】「美の滋賀」の支援事業 H25～R 元年度の7年間で 延べ 73 事業を支援 (関連イベントへの総来場者数は 28 万人以上)</p>	
②新生美術館をつくり、地域や現場と交流しながら発信する	
<p>近代美術館や琵琶湖文化館の収蔵品の館外展示を積極的に行い、その魅力を国内外に発信できた。</p>	 <p>マイヤーガーデン滋賀特別展</p>
<p>【取組例】琵琶湖文化館県外展覧会 H24 年度以降、9回の開催で 50 万人以上が来場 (ミシガン州の特別展には、38 万人以上が来場)</p>	
③滋賀の「美」の魅力を県民自らが伝える舞台をつくる	
<p>文化財の守り手、伝え手を育成する専門講座や、子どもを対象にした近代美術館のイベント・出前プログラムに多くの人々が参加するなど、「美の滋賀」の裾野が広がっている。</p>	 <p>近代美術館 学校出前授業</p>
<p>【取組例】文化財関係の講座・研修 H25～H30 年度の6年間で 1,700 人以上が参加</p>	
<p>【取組例】みんなで創る美術館プロジェクト 学校出前授業 204 回実施 13,751 人が参加 地域出前プログラム 255 回実施 16,958 人が参加</p>	

### <課 題>

全体の進め方	<p>「美の滋賀」発信懇話会の提言に基づいて展開してきた具体の施策については、多くの人々の参加を得て受け入れられてきたが、提言と具体の施策をつなぐ、県としての全体的・体系的な方針が不十分であったため、「美の滋賀」の捉え方が不明確となり、取組全体の発信も十分できていなかった。</p> <p>➡ 多様な滋賀の美の魅力を効果的に発信するための県としての全体方針（戦略）の策定</p>
拠点整備	<p>新生美術館計画が実現に至らず、3つの美を中心とした滋賀の美の強力な発信や、県民自身による発信の広がりにつなげることができなかった。</p> <p>➡ 発信の核となる近代美術館と琵琶湖文化館の早期のリスタート</p>
美の発信	<p>観光やビワイチなどの各種施策や、県内の美術館・博物館、民間事業者との連携が不十分であり、効果的な発信という面で課題が残った。</p> <p>➡ 県の施策や他の県立施設、関係者や関連施設との連携強化</p>

### 3 外部有識者の意見 (8/7 「美の滋賀」発信方策検討懇話会における主な意見)

#### <懇話会委員>

(敬称略・五十音順)

氏名	役職等
伊熊 泰子	株式会社新潮社「芸術新潮」編集部員
上田 洋平	滋賀県立大学地域共生センター講師
岡田 修二	成安造形大学学長 <会長>
神田 浩	滋賀県美術協会理事長
島 敦彦	金沢 21 世紀美術館館長・近代美術館協議会委員
藤野 滋	藤野商事株式会社代表取締役社長 滋賀経済同友会副代表幹事
保坂 健二郎	東京国立近代美術館主任研究員
山崎 仁嗣	膳所高等学校教諭

#### <主な意見>

1 基本的な考え方	<p>① 「美の滋賀」発信懇話会提言の理念は非常に今日的な内容であり、SDGsや県基本構想の考え方とも整合している。</p> <p>一方で、理念と具体の施策が混在しているため、どの部分が今後も活かしていくべき理念であるのかを再整理した上で取組を継続していく必要がある。</p> <p>② 県民が健やかに生き生きと暮らしていること自体が地域のブランド力を高める。健やかな暮らしや風土と「美の滋賀」は切り離せない。</p>
2 SDGs	<p>① ミュージアムが SDGs に取り組んでいくことは世界的潮流である。地域の歴史、マイノリティ、ジェンダー等の問題を、正面から取り上げていくことが求められている。近代美術館が SDGs に取り組むことは理に適っており、他府県に先駆けて取り組むべき。</p> <p>② 社会への関与は今や現代アートの基本であり、SDGs等の新しい価値観に向けて、美術はどうあるべきかという姿勢が問われている。</p>
3 今後の方向性等	<p>① これまでの事業で育成してきた人材がフォローされていないのではないのか。活動をしている県民同士の出会いの場がないという状態を見直すべき。</p> <p>② 草の根レベルで芸術を愛して創作活動を行っている人々をつないでいくべき。県内では、文芸会館等の単位で多くの団体が活動している。そういう方たちが美術関係の行政の一番の応援団になる。県行政が、県内の人材・団体とつながっていないために喪失している機会も多い。そういった人々をつなぐためにもギャラリーを整備してほしい。</p> <p>③ 「美の滋賀」全体の窓口、県内で活動を望む人々とのプラットフォームを近代美術館の中に設けるべき。美術や芸術というだけで遠い世界のことだと思える人も多し中、絵画や彫刻だけでなく、自然の美なども含めた身近な美であることを伝えていく必要がある。</p> <p>④ 文化財については、着地型観光の視点で、地域の方が熱く語る環境を整えてほしい。</p>

<p>4 近代美術館の取組の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 地域、祭り、工芸、アール・ブリュット等を取り上げながらアートとして提言していくのであれば、名称はさておき、「近代」美術館から「現代」美術館になるという姿勢を打ち出していかなければならず、あたらしい滋賀モデルの提示が必要。</li> <li>② SDGsに取り組む企業の支援を受け、友の会が主体となってアール・ブリュット作品を収集し、県内の学校に展示する事業を行うことで、県民がいつでもアール・ブリュットを鑑賞できる環境を整えてはどうか。</li> <li>③ 教育現場において、答えのある問題の解き方を教えるだけでなく、何を問うのかというところから考えるような教育が重視される中、自分たちの社会をアートの視点から考えるような授業を組み立てる時に、美術館に力になってほしい。</li> <li>④ コロナ禍の中、オンラインの活用が進んでいるが、オンラインとオフラインの違いは、どの場合にどちらを中心になって取り組んでいくか等を考えていけたらよい。</li> <li>⑤ 県民、他機関、文化館等との連携にはコーディネーターのマンパワーが必要。大学で教員のサポートを行っている URA(リサーチ・アドミニストレーター)の雇用や、オンラインの活用等、適正な人員体制を検討してほしい。</li> <li>⑥ 広報、保存修復、普及等専門の部門の整備が必要であり、業務委託等も含めて検討が必要。</li> <li>⑦ 館外プログラムをすべて職員が中心となって行うには限界がある。美術協会等の県全体を網羅する組織とうまく連携し、互いに WINWIN となる活動ができれば、県の施策の応援団にもなってもらえる。</li> <li>⑧ 3年間休館していた美術館がリピーターを確保するには、美術ファンをターゲットとするという趣旨で、他の美術館等の友の会会員証の提示で割引料金とするくらいの思い切った取組が必要。</li> </ul>
-----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------